

式 辞

本日ここに、磐田市制施行十五周年記念式典を挙行するにあたり、公私ともご多忙の中、多くの皆様に、ご臨席を賜り、心から感謝申し上げます。

長い歴史を積み重ねてきた五つの市町村が、子供たちや若者たちの将来のためにと、色々な思いを飲み込み、平成十七年四月一日に合併をいたしました。

しかし、合併後には百年に一度といわれた世界同時不況が起こり、その後の東日本大震災や新型コロナウイルス感染症の拡大により、この恵まれた地であった磐田市にも激震が走りました。現在もなお不安な生活が続いておりますが、このコロナ禍だからこそ、明るい未来へ希望を持ち、磐田がさらに発展していくことを願って、本日この記念式典を開催する運びとなりました。

十五年を振り返れば、新しい市の基礎をつくる、という目標を掲げ、財政の立て直しや、早急な危機管理対策を進める中、大きな課題を先送りすることなく、真正面から取り組み、その一つ一つを解消できましたことは、市議会や市民の皆様のご理解、関係の皆様のご尽力の賜物と、心か

ら感謝とお礼を申し上げたいと思います。

具体的には、市民の健康と生命、安全・安心のため、磐田市総合健康福祉会館、iプラザが開館し、合併当時からの課題であった、南部地区の救急医療体制の確保を図るために急患センターを開設するとともに、磐田市立総合病院には、新たに周産期母子医療センターや腫瘍センターを整備しました。消防では周辺市町との共同運用による高機能消防指令センターを設置し、さらに、東日本大震災を受け、防災センターや津波避難タワーなどの避難施設の整備のほか、海岸堤防の整備に着手するとともに、玉野市、甲府市、鹿児島市との災害時応援協定の締結や、市町村広域災害ネットワークへ加入することなどにより、市民の不安を少しでも解消しようという思いで、防災対策を行ってきました。

子育て・教育では、福田こども園、磐田北幼稚園、磐田なかよしこども園の整備や全公立幼稚園での預かり保育の実施などにより、待機児童ゼロを達成し、小中一貫教育は、全中学校区に一体校を整備する「学府一体校構想」にまで発展し、この春には、市内初となる「ながふじ学府小中一体校」がいよいよ開校します。さらには、学習交流センター、ひと・ほんの庭「にこっと」、こども・若者相談センタ

ーの開設や、こども医療費の中学生までの完全無料化及び高校生年代への拡大、ジュビロ磐田小学生一斉観戦や中学生海外派遣、広島平和記念式典への小中学生派遣、中学生スタートアップ応援事業など、「子育て・教育なら磐田」と思っていただけのような取り組みに力を入れました。

産業・雇用の面では、下野部工業団地への企業誘致や次世代型農水産業の立地推進を図るとともに、渚の交流館の整備や、市内全域の光ファイバー網の整備を行い、都市基盤の整備では、請願から長い年月を費やしたJR御厨駅が昨年3月に開業したことをはじめ、磐田駅北口広場、新磐田スマートインターチェンジなど、市の新たな玄関口の整備を進めることができ、さらには、新市としての一体感の更なる醸成などを目的に、イメージキャラクターしつぺいの誕生や市歌「ふるさと磐田」を制定したほか、「まちづくりは人づくり」という考え方のもと、地域活動の拠点として、公民館等を交流センターに一元化、豊田東、豊岡中央、豊浜の各交流センターや竜洋西会館の整備を進めるとともに、地域づくり協議会の設立、地域づくり応援一括交付金の創設により、地域が発展していくための基盤づくりを行いました。

こうした取り組みをバランス良く進めることにより、市民の皆さんがふるさと磐田に自信と誇りをもつていただくことが何よりも大切だと考えています。そして、若者や子どもたちが、夢や希望を持ち続け、次の五年、十年に向かって、「たくさんの元気と笑顔があふれるまち 磐田」を市民の皆さまとともに築いていきたいと思えます。本日の良き日が、その新たなスタートを切る記念日になることを願ってやみません。

結びに、市町村合併にあたってご尽力いただいた方々、そして、長年にわたり、市勢の発展にご尽力された方々に改めて心から感謝を申し上げますとともに、本日ご列席の皆様のご健勝とご繁栄を祈念申し上げます。

令和三年三月二十八日

磐田市長 渡部 修